

平成27年11月6日(金)

老球の細道177

コーチが育成すべきグッドプレイヤー像

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先日会津地区で県選手権大会が開催された。高校、大学、一般を問わず、福島県で最も強いチームはどこかを決する県内最大の大会である。県内それぞれのカテゴリーにおいてNO1のチームが参加しているのに、それらの試合が真近で見られるのに会津地区の小学生、中学生の観戦が少なかったのは気のせいだろうか。観戦していても、飽きてしまってゲームに目がいかず、携帯やスマホなどに視線が向いている高校生なども垣間見られ残念でしかたがなかった。レベルの高いゲームを貪欲に見る、見れるということも優秀なプレイヤーになるための必要不可欠な行動であり、資質である。

また、参加したプレイヤーにも残念なことがあった。プレイヤーとしての自覚がなく、審判や相手プレイヤーに適切な行動をとれなかった者がいた。もし私がそのようなプレイヤーのコーチだったら、どれだけ残念な思いをしたことだろう。私自身もプレイヤー時代にひんしゅくをかう行動をたくさんやってきたので偉そうなことは言えない。だからコーチになってからは自分の反省もふまえて、自分が育てた選手は周囲に自慢でき、バスケットボール以外でも社会的に通用する人間を育てたいと願ってコーチを続けてきた。

子は親の鑑、プレイヤーもコーチの鑑である。さらに、コーチの手から離れた時にコーチから受けた影響がいかに反映しているか、コーチの真価が問われる時である。私たちコーチはバスケットボールの世界ばかりでなく、広い社会で通用するグッドプレイヤーを育てる責任がある。それによってバスケットボールの社会的な認知度、ステータスが高まっていき、代表チームの活躍がプラスされて、日本においてマイナーからメジャースポーツへと変身する。

日本体育協会では「グッドプレイヤー像」の指針も打ち出している。すべてあたりまえのことかもしれないが、あたりまえのことを徹底することが重要である。

■スポーツを愛し、その意義と価値を自覚し、尊重し、表現できる人

バスケットボールが飯の次に好き。バスケットボールの意義と価値を理解し、周囲に伝えられる。バスケットボールに関わり合いながら人生を全うしたいと思う。

■フェアプレイを誇りとし、自らの心に恥じない態度をとり行動ができる人

他人は見えていなくとも自分は見ている。バスケットボールの神様は見ている。

■何事に対しても、自ら考え、工夫し、行動できる人

立ちはだかる壁、葛藤。最後は自分の力で解決するのみ。創意工夫が武器となる。

■いかなる状況においても、前向きかつひたむきに取り組むことができる人

プレッシャー君ようこそ、君がいないと燃えないよ。困難の選択こそ向上への近道。

■社会の一員であることを自覚し、模範となる態度・行動が取れる人

■優しさと思いやりを持ち、差別や偏見を持たない人

■自分を支えるすべての人々(保護者、コーチ、仲間、審判、対戦相手など)を尊重し、感謝、信頼できる人

スポーツマンシップとはリスペクトからなる。リスペクトできる人を勝たせてあげたい。

■仲間を信じ、励まし合い、高め合うために協力・協働・協調できる人